

# 2023年度自己評価結果報告書

—教職員編—

## 1 本園の教育目標

一 心豊かな思いやりのある子どもに

二 自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに

◎明るく潤いのある子ども      ◎思いきり遊べる子ども      ◎話をしっかり聴く子ども      ◎調べたり、試したり、工夫する子ども

1 人との関わりを通して、基本的な生活習慣・態度及び健全な心身を育成することの必要性に気付き、自ら進んでその態度・意識を高めようとする意欲を育む。

2 自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う。活動と休息、開放感と緊張感、動と静などの調和を保った健康的な生活リズムを保障する。

3 自然と豊かに関わることを通して、その不思議さ等に気付いたり、科学的認識を高めたり、昆虫などの生命ある小さきものをいとoshむ態度を培う。

4 心の働きの表れである『ことば』を大切にし、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う。

5 多様な感動体験を伴う生活を通して、より豊かな感性を培い、創造する力、想像する力を豊かに育む。

## 2 本年度の重点評価項目、評価結果、取組・達成状況

重点評価項目		評価結果	取組達成状況
分類	内容		
保育の 計画性	3歳4歳5歳の連続性を重視し、子どもの成長発達に役立たせるために、前年度の担任と話し合う機会をパターン化させる。	A	<p>・前年度の担任と話し合う機会はパターン化し、子どもの成長の過程を確認しながら、情報交換が十分に出来た。昨年度に引き続き、『集団の中の一員としての態度』について、3歳4歳5歳の連続性を重視して取り組んだ。また、異年齢集団の取り組みを通し、様々な教師が実際に子どもの姿を見ることで、より意識して観察、考察しながら、日々の保育に繋げることが出来た。話を聴くことについては、対話的保育を心掛け、各年齢の発達段階に沿って進めてきた。自分の思いを伝えたい気持ちが膨らみ、相手の考えを聴くことを通し、色々な考えが集まり豊かな活動や相手を思う気持ちに繋がった。こうした生活の中で、集団の一員としての態度が生まれ、子ども達の自主性が育ち、連続性の重要性を実感した。</p>
	人の話を聴くということの自立については、多少制約されつつも集団の中の一員としての自覚を持つよう導き、教師の指示ではなく、子ども自身の必要感に裏打ちされた自立的態度化を求めて日々子どもたちと接している。	A	

	<p>指導計画は、自己発揮と自己抑制との豊かな調和がとれた自律性を養う保育を心掛け、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児が主体的に関わり、安定して遊び込める環境を活動の展開に応じて再構成している。</p> <p>他のクラスや異年齢の幼児と関われるよう、様々な保育の形態を取り入れる。</p> <p>指導上配慮を必要とする園児に対しては、個別の指導計画を作成し、情報交換を密にして共通理解をもって対応する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の計画は、子ども達の興味関心を教師が受け止め、活動に活かし日々の振り返りを基に、作成、再構成しながら進めてきた。子どもたちのイメージを生かし、一人ひとりが伸び伸びと表現できるよう遊び環境を整えてきた。年長組では、農園活動を通し、困っている人の為に出来ることを考え、新たな活動に目的を見出し力を出してきた。子どもたちが主体となり、話し合いを重ねながら活動を進めることが出来た。今後も子どもたちと共に創り出す保育を目指していきたい。</li> <li>・今年度は、教育課程に『異年齢の関わり』を掲げ、音楽で遊ぶ・農園保育・運動会ごっこなど、計画的に保育に取り入れた。日常の中で、異年齢の関わりを多く持つことで、思いやりや憧れる気持ちが膨らみ、生活の豊かさに繋がった。</li> <li>・指導上配慮を必要とする園児については、個別の指導計画を作成し、一人ひとりの特性の理解に努め、目標を決めて丁寧に関わった。家庭や各関係機関と連携を取りながら共通理解に努め、それぞれの重点や必要な対応をすることで子どもの育ちに繋がった。</li> </ul>
--	---	---	---

<p>保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた、見通しのあるかかわりをしている。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに寄り添い、集団の中で安心して過ごせる場を保障できるように関わってきた。また、個の特性を意識した関わりや環境を整え、遊びや活動、空間を心掛け生活してきた。</li> <li>・個々の発達段階や個の特性に応じた関わりを持つことで、個と集団を考慮しながら関わりを持つ大切さを実感することができた。更に、教職員間での共通理解を深め、場面に応じた関わりや対応の仕方を実践していきたい。</li> </ul>
--------------------------	--	----------	--

	<p>人間形成のために、本園の教育目標Ⅱ『自ら考え、自ら決め、進んで行う子どもに』を重視し、“幼児一人ひとりが人間として命を大事にして生きていくこと”と“自分に対して誠実に生きること”ということを願い、遠い将来を見通した幼児教育を目指している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標を念頭に置き、自ら考えて行動していく事を大切にしてきた。生活習慣の見直しや生活が安定していくことなどを重視し援助してきた。</li> <li>・集団としての行動も出来るようになり、友達を感じ、関わりながら自分の思いや友達の思いも大事に出来る様に援助してきた。仲間との生活の中で、想像する時間が満たされ、自分たちで考えて行動する充実感を味わい活動することが出来た。一人ひとりが生き生きと自信を持って生活出来るようになって欲しい。</li> <li>・年長児は農園活動を通し、困っている人の思いを想像し、自分たちの出来ること（福島の子どもたちを支援する活動、山梨フードバンクセンターへの取り組み）を見いだし、真剣に考えその目的に向かって意欲的に取り組んできた。自ら思いやりの気持ちを持ち取り組んできた中で、そこで出会った人から優しさをもらった。その経験がこれからの人生に繋がって欲しいと願う。また、理事長先生から聞いた『平和の話』では、戦争と平和の違いについて考え、自分たちは「喧嘩はするけれど、仲直りが出来る」と相手を思う気持ちの大切さが表れた。これからの未来の平和を思い、子どもたち自身が考え、大切なことを守っていくことの土台となる保育や自分や周りの人を大切に思い、仲間と共に過ごす時間を充実させていきたい。</li> </ul>
<p>研修と研究</p>	<p>教師一人一人が自らの課題を自覚し、自立していくために研鑽を深めていく。同時に各々の特性を生かした同僚性を効果的に展開し、保育の質の向上を目指していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領を基に、幼児の実態を照らし合わせ幼児の興味関心を活かし保育を行った。生活の中でも子どもたちが興味関心を持ち楽しんでいるかを見極めながら生活し更に表出されていけるように援助してきた。</li> <li>・各クラスの活動や取り組み方法等に影響を受け、刺激し合ってきた。今年度は『異年齢の関わり』を積極的に行い、教師一人ひとりの特性を生かした保育が展開されていたと思う。各々の持ち味を生かし合うことが、保育の豊かさに繋がっている。来年度も続けていきたい。</li> <li>・自ら1年間大事にしてきた保育の取り組み内容をまとめ発表したことは、まさしく保育の質の向上を目指し研究した姿であった。しかし、職員の人数が少ないので働き方については忙しさを感じる。保育の質の向上に向け、教職員がゆとりを持ち、互いの良さを生かし合える職場づくりを更に目指したい。</li> </ul>
	<p>協同性と表現を大きな柱とし、保育を進める上で科学的な考察、実践的な考察を有機的に結合させていく。これは、子どもの発達の見通しや家庭や小学校との連携においてもこの視点で伝えていく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同性と表現を大きな柱とし意識して保育を進める上で大きな成果が表れた。子どもたちの主体性を重視し、些細な出来事や発言に耳を傾け、子どもたちの興味関心に応じて展開することで子どもたち自身が多くの学びを得ることが出来たと思う。特に年長児は表現活動を通して、友達と伝え合い、互いを認め合い、更に知的好奇心を膨らませながら活動を進めることが出来た。今後の学ぶ意欲に繋がっていくと思う。また、その姿は保護者に伝わり、深い理解を感じる事が出来た。</li> <li>・子どもの発達について、担任の考察を基に教職員と意見交換をすることで、見通しを持った関わりや、家庭とのやり取りを行う事が出来た。小学校への連携は配慮してきた点について伝えることが多かったため、更に幼児教育の本質を伝えていきたい。</li> </ul>

※自己評価欄の記入方

A ;十分に達成されている。B ;ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている。C ;課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない。

### 3 総合評価

- ・保護者や外部の人たちに対して、クラスだより、保育参観、HP、CATV 等を通して、園児の成長の姿や園で大切にしている幼児教育の重要性を実感してもらうことができ、保護者との共通理解が深まった。特に保育参観等の行事後の保護者からの感想やメッセージにおいて、その思いが伝わってきた。大きな成果となった。今後も継続出来るようにしたい。
- ・異年齢保育において「音楽活動」の取り組みでは子どもたちの成長や教師の学びに繋がった。更に異年齢の関わりを定期的に持つことにより、農園活動や遊びの中での関わりが充実した。年長児を送る会などで子どもたちの思いが自然に表れていた。
- ・「農園活動」では福島の子どもたちを支援する活動、今年度新たに山梨フードバンクセンターへの取り組みが加わったことで、人の優しさに触れ、相手を思いやる気持ちや意欲に繋がった。このことは年下の子どもたちによい影響を与えた。その中で、集団の一員として話を聞くということ、相手を感じ意識して取り組むことへの成果が表れた。
- ・ポップコーンの種を蒔き、育てて収穫し、ポップコーン作りを実施したことは、自ら育て収穫し食するという経験となり、子どもたちの生活が意欲的になり感性が育まれ、自信へと繋がった。
- ・自然との関わりと歌などの文化の融合が表現活動の充実に繋がった。自然との関わりを今後も大切にすると同時に、子どもたちの心の豊かさと文化との出会いを保障したい。更に、子どもたちに丁寧に関わり、一人ひとりの思いに向き合いながら保育を展開していきたい。
- ・外部講師を招き、実践例を持ち寄り、年3回の園内研究会を開催することが出来た。保育を考察する中で、新たな課題を見出し次回への研究に繋がった。「幼児のふさわしい生活」を「幼児の幸せな生活」と題し、新たな願いを抱き、保育の向上や豊かさに繋げたい。

#### 4 今後の改善点

改善点	具体的な取り組み内容
<p>○個別の支援計画の作成</p> <p>○保護者との共通理解</p> <p>○保育の計画性</p> <p>○研究と研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著しく変化した内容を記述し、項目や表現方法は該当児に合う内容を記入する。</li> <li>・昨年度、クラスだより、保育参観、写真、HP、CATV等を活用したことで、子どもの成長の姿や園が大切にしていること、幼児教育の重要性の共通理解に繋がった。今後も子どもたちの幸な生活を共に考え継続していきたい。</li> <li>・異年齢の関わりの中で、子どもたちの成長発達について考察したことを深め、更なる活動への取り組みを実践していく。</li> <li>・個の育ちを見守りながら、子ども一人ひとりの特性を活かし、集団の中での楽しみへと繋げていきたい。そのために子どもの育ちを見通し、指導や援助を適切に行っていく。</li> <li>・異年齢の関わりで発揮してきた教職員の連携や各々の特性を、今後も保育の展開に充実させていく。</li> <li>・放課後の時間が改善されたことで、クラス事務等に充てるための時間は増えたが、課題は残っている。更に働きやすい環境にしていくために、持ち帰りの仕事や改善できる事務内容を見直していきたい。</li> </ul>